

報告第6号

令和4年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告について

令和4年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書を別紙のとおり作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により報告する。

令和5年9月1日提出

里庄町長 加藤 泰久

令和4年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和5年9月

里庄町教育委員会

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）により、全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないことになっております。

本報告書は、地教行法第26条に基づき、令和4年度の点検及び評価を行い、報告するものです。

〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検及び評価の方法等

1 対象

令和4年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報告

令和5年9月1日 議会に提出

3 公表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

III 点検及び評価

1 教育委員会の組織・活動

（1）会議の運営等

教育委員会議は、定例会を毎月1回（令和4年度：計12回）開催しました。（※資料1）全員が出席し（定例第2回・第3回・第5回・第8回・第9回を除く）十分な時間を掛けて審議及び協議を行い、充実した運営となっています。審議を深めるための工夫として、事前

に事務局に議案書及び関係資料を提出させるよう努め、今後も引き続き改善したいと考えています。

町長とは、総合教育会議（10月・2月）や諸行事で会う機会を通じて、「中学校部活動の地域移行について」「秋田の教育の取組と里庄について」を議題として、意見交換や協議、支援の要請などを行い、連携を強化することに努力してまいりました。今後も町当局との連携を図り、一貫した教育行政を進めることが、重要と考えています。教育委員と町長との懇談や意見交換は、両者の円滑な連携と一貫性を図るために重要であると考えており、今後も引き続き実施したいと考えております。

事務局の職員体制については、令和2年度から、学芸員を町費で配置し、文化財などに関する専門性を高め、文化財保護委員と連携することで体制の整備を図りました。学校教育について、学校の指導支援を行う指導主事を継続して配置しています。また、地域と子どもたちを結ぶ教育コーディネーターも継続して町費で配置し学校教育・社会教育の両面にわたり、専門性を高める取り組みを行っております。今後も、事務分掌の見直し等を図りながら効果的な体制の整備を図る必要があります。

地域の実情に応じた施策及び地域住民の意向を施策に反映することについては、各校の学校運営協議会の意見や、本年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため開催はできませんでしたが、学校・園の「現状」を広く地域住民の方々に知っていただくため、「一日学校公開」において、来場の際に頂くアンケートや、「教育を考えるつどい」での意見等も参考にして施策に生かすように努めています。コロナ禍において、学校教育及び社会教育の両面で工夫や努力が今後一層求められるようになっており、今後も鋭意検討を続けたいと考えております。

教育委員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、岡山市町村教育委員会連絡協議会総会は書面での開催、研修会は、ZOOMでの開催となりました。今後も委員としての識見の向上と、当町の幼児・児童・生徒の学力向上対策や豊かな成長が推進されるよう、努力してまいります。先進地の学校訪問等を通して、具体的な取り組みを研修することを目的とした県外視察研修につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止といたしました。（※資料2）

それ以外にも、教育長、指導主事等が定期的に学校や社会教育関係施設の訪問を限られた時間の中で実施し、現状把握を行ったうえで、業務の見直しや施設の改善を提案しました。

学校・園の行事や教育委員会主催の行事にも積極的に参加し、実情を理解しました。しかしながら、本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校・園行事の中止や変更、教育委員会主催の行事についても、中止・縮小により参加行事が減少しました。（※資料3）しかし、学校・園の現状把握のために、毎年実施している学校訪問については、実施することができました。学校・園の取組の成果や課題については、把握することができました。その後、教育委員の見解を聴取したうえ、教育委員会の審議及び協議に役立て、可能な限り学校・園の支援を行いました。

(2) 公開性

教育委員会が、町民にとって身近なものとなるよう、可能な限り情報を公開する方針のもとで、定例会の開催予定及び議事内容を町ホームページに掲載しています。議事内容については、プライバシーや個人情報等で配慮を要する事項も多々あり、今後も内容の公開につきましては、慎重に進めていきたいと考えております。

町主催の分館長会議に教育長や教育委員会事務局職員らが出席し、町民の方々から教育行政等についての意見や要望等を出していただき、教育委員会で検討いたしました。公聴活動は、町民の意志を反映した教育行政を推進するために大切なことでありますので、今後も町民の方々からの意見や要望等をしっかりお聞きし、また教育行政施策の広報について、今後も積極的に行いたいと考えております。

また、教育委員会及び学校・園の取組を紹介した「里ちゃんだより」(※資料4)を年3回発行し、町内全戸へ配付しました。

2 教育委員会が管理執行する事務

(1) 基本的・総務的事務

教育行政重点施策(※資料5)の策定など基本方針の多くは、事務局に原案や資料を提出させ、教育委員会として慎重に審議することができています。

教育関係予算については、各校・園等の要望を聞き、教育長等が町長へ要求し、教育委員会としての意見を尊重した議案が議会へ提出されるよう努めています。

従来から当町の教育予算の比率は高く、教育が重要視されています。教育予算編成の話合いにもっと時間をかけ、里庄町の教育がより充実するようにしたいと考えています。

(2) 人的管理に属する事務

町立小中学校の校長等の任免について県教育委員会に対して内申を行っていますが、今後も慎重に行っていきたいと考えています。文化財保護委員等各種委員の委嘱または任免は、教育委員会で議決しています。人的管理に属する事務については、県教育委員会及び町長部局との連携をより密にしていくよう努めてまいります。

学校関係職員の研修は計画的・効果的に実施され成果が上がっています。事務局職員の研修は日々の研修と県教育委員会や町長部局に委ねている研修があり、今後も充実させていく必要があります。

また今年度も、外部人材の活用や支援員等の配置、中学校における部活動休養日の設定、夏季休業中(8月10日～16日)及び冬季休業中(12月28日～1月4日)の学校完全閉庁期間を設定、幼稚園・小中学校への「自動音声対応電話の導入」の定着など、学校現場における働き方改革に向けて、具体的な取り組みを実施しました。

新型コロナウイルス感染症は、学校教育において本年度も影響がありました。各校で、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う、学年・学級閉鎖を実施しました。運動会や修学旅行、学芸会などの学校行事についても、中止や規模の縮小、開催内容の変更など、昨年度に引き

続いて、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みました。

また、今まで行ってきた行事や活動について「本当に実施しなければならないのか？」「活動の狙いは何なのか？」などを、引き続き検討しながら行ってまいりました。

コロナ禍において、東西小学校放課後児童クラブ、幼稚園預かり保育の支援員や学校教職員、生活支援員や教育委員会が、子どもたちの居場所づくりや心のケアに、一丸となって努めた1年間となりました。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育

新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度に引き続き各学校園では最大の配慮を行い、新しい学校生活様式への転換を図りながら取り組んでまいりました。マスクの着用、手指消毒、家庭での検温、室内換気の徹底、一定方向を向き黙って食べる「黙食」の実施など、教職員・園児・児童・生徒・学校関係者が取り組みました。日々変化する新型コロナウイルス感染症の感染状況を見守りながら、今後も取り組んでまいります。

小・中学校の全国学力・学力状況調査の結果は、概ね全国平均のレベルにあります。町としての学力向上の方針を示し、各学校も学校としての学力向上策を定めて鋭意努力しています。

教育委員会としても、学力向上を図るためソフト面やハード面の予算を措置いたしました。町内の幼稚園、小中学校の教育職員等を対象とした教職員研修を実施いたしました。感染症対策として、遠隔研修の形態で実施いたしました。

いじめ・不登校の解消に向けては、引き続き町をあげて重点的に取り組みましたが、登校できにくい児童・生徒が複数名います。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、浅口市にある「浅口大簡塾（適応指導教室）」を、浅口市と協定を結び利用可能にしています。浅口大簡塾に通うことで、学校復帰を果たした生徒もおります。今後も継続して解消を目指して取り組んでまいります。

特別支援教育については、特別支援学級・通常学級において指導の充実を図っています。具体的には、町の教育相談員が学校の要請により学校を訪問し、具体的な指導方法について支援しています。また、生活支援員を対象に特別支援教育の理解を目的として、研修会を年間2回実施しています。感染症対策を行いながら、集合研修を実施しました。

小学校の通常学級に在籍している発達障害のある児童は、日常生活での様々な場面で困難さを感じています。その解消のため、児童が在籍している小学校での指導を行うとともに浅口市立六条院小学校内にある「あすなろ教室」を、浅口市と協定を結び利用可能にすることで、一人ひとりの児童に応じた個別の支援が受けられるようにしています。そうすることで学習の不安や友達関係やコミュニケーション面の不安を解消し、感情のコントロールの仕方等を身につけていきます。

少子化の進行などを背景に、子どもの育ちが大きく変化しており、様々な要因から小学校の生活になじめないことも見受けられます。里庄町では、保幼小接続スタンダードを作成し

保育園、幼稚園、小学校が歩調を合わせ、幼児教育と小学校教育を円滑に接続し、子どもの育ちと学びを滑らかにつなげる努力をしています。

さらに、保幼小中のそれぞれの卒業期の姿を設定することで、就学前から中学校卒業までの11年間を見通した保育・教育が行えるようにしています。各卒業期の子どもの姿や、徳知体の各分野で付けたい力を明確にし、里庄町各園校の卒業期における「めざす子どもの姿」を設定しています。このことにより、幼稚園の先生が中学校の子どもの姿を意識して保育するなど、子どもの育ちの連続性を意識した保育・教育が行えるようになっていきます。

子どもたちがこれからの時代を生きていく上で、自分で主体的・自律的にキャリアを切り拓いていくための能力の獲得・向上が必要になります。この力は非認知能力と呼ばれています。岡山大学の中山准教授の指導を仰ぎながら、各学校で非認知能力を高める取り組みを行いました。具体的には、「自分を高める力（意欲・向上心・自尊感情・楽観性等）」「自分と向き合う力（自制心・忍耐力・レジリエンス等）」「他者と向き合う力（共感性・協調性・コミュニケーション力等）」を高めるために「里庄3ションプログラム」を導入しています。年間2回のアンケートを実施し、実態に即した活動ができるようにしています。取り組みは3年目を迎え、各校は実態に応じて創意工夫をし、学校行事や授業に関連させた活動に広がりを見せています。効果として、児童生徒が穏やかに学校生活を送れるようになり、意欲の向上や子ども同士の関係性の向上、自主性や自立性も見られるようになってきています。

子どもたちが安心して学習や学校生活を送れるように、幼稚園、小・中学校に生活支援員を配置しています。東小学校6人・西小学校に8人、中学校3人、そして東幼稚園3人、西幼稚園に2人で、落ち着いた学習環境が確保され、十分な成果を上げています。

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間する中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少など、生活習慣の乱れも指摘されています。令和4年12月現在、小学校4年生～6年生の40%、中学校1年生～3年生の75%の児童・生徒が自分のスマホや携帯電話を所持しています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。子どもを守るのは、社会の大人全体の責任であり、とりわけ、子どもの一番身近にいる保護者の行動が大変重要です。そこで、統一ルールと合わせて、家庭内のルール作りを子どもと共に進めるよう、各家庭での取り組みの徹底をお願いしています。

GIGAスクール構想の本格実施に伴い、里庄町の小中学校では、一人1台コンピューター端末の導入を行いました。引き続き、児童・生徒に各教科等で必要とされる資質・能力を身につけるため、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の3つの場面での活用を行いました。特に、「協働学習」で活用することを重点とし、協働学習ツールの積極的な活用を進めました。これにより、児童生徒の主体的・対話的な学習に結びついたり、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション力の向上に繋がったりするなど、問題解決型学習のより一層の推進がみられました。

子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の向上に努め、グローバルな人材の育成を目的とした英語指導助手については、令和元年度から自治体国際化協会による、語学指導等を行う外国青年招致事業「JETプログラム」から3名の体制で授業を行いました。

里庄町では、学校給食は子どもたちの体や心を育てるのに重要なものであり、食事は人づくりの上でとても大切なこととして、学校給食に力を入れてきています。自校給食を実施し本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、食堂での給食は実施していませんが、コロナが収束すれば、小学校ではできたての給食をファミリー形態で食べる取り組みに戻します。

学校等の教育施設における教育環境改善及び整備では、「新型コロナウイルス感染症対策」として、学校図書館における児童・生徒の接見（対面）時間の短縮を図り、感染リスクの抑制を図るため、東・西小学校及び中学校へ「学校図書館システム」を導入しました。

学校の給食厨房施設では、学校給食に携わる職員の感染リスクを抑制するために、設備の老朽化により、著しく室内の吸・換気能力が低下していた、中学校の換気装置を、現在の室内規模に適した能力機器へ更新を図り、学校給食が安全かつ安定して提供できるように、設備面での環境を改善しました。

東小学校では、児童・教職員が一同に集い、給食を食べるランチルームの天井照明の全面改修を行い、薄暗かった部屋の照度改善と消費電力の節減を図りました。また、西小学校施設では経年劣化により傷みが進行していた屋外体育施設である7連鉄棒の更新や、塗膜の剥離が著しく怪我のリスクが心配された体育プールの全面塗装改修を行い、安全なプール施設で、安心して授業を行うことができる環境を整備しました。

また、西小学校では、中学校と併せて、通信障害が出始めていた校内の電話回線及び各教室の電話機の全面改修を行い、スムーズな学校運営が図られる校内環境を改善しました。

公立の東・西幼稚園では、老朽化が著しかった各園庭の複合遊具を、発育期にある園児の好奇心を刺激し自発性や独創性の向上、体力づくりに資する構成及び機能性、安全性をもたせた複合遊戯施設に約50年ぶりに更新しました。

(2) 社会教育

新型コロナウイルス感染症の影響は令和4年度の社会教育にも大きな影響を与えました。昨年度に続き、普通に活動できたり、使用できていたものが、活動や利用の制限がかかることによってまったく異なった環境になってしまいました。しかしながら、町民の方々のご理解とご協力のおかげで、徐々にではありますが、普段の社会教育環境に、また工夫や協力をしながら、新たな社会教育環境を形成しています。

町民のニーズに応じた各種講座を開設しており、多くの町民が文化活動を通して生きる喜びを感じ、自己実現を図っています。今後も、企画運営を受講者自身が行う講座となるよう、一層の充実に努めます。

岡山県が制定した11月1日の「教育の日」に関連し、「里庄町教育を考えるつどい」、小学校入学前の就学時健診時と中学校入学前の入学説明会の際に行う子育て講座や、保護者同士が共通の悩みをお互い考える、議論し合う講座など、家庭教育についての研修を行う機会については、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響から、開催を中止したり、内容を変更して行いました。

平成28年度から始めた、学校の授業だけでなく、子どもたちが自ら学び体験することで生きる力を育み、地域全体で子どもを育てていく事を目的とする「さとしょう未来塾」事業も7年目となりました。自学自習を基本とした学習に取り組む「里ちゃん寺子屋」と体験を通じて子どもたちが「生きる力」を身につける「里ちゃんチャレンジ・ワールド」の2本の柱で、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施し、地元地域の方々や、文化協会の方々、虚空蔵大学生などの協力を得ながら、地域の子どもは地域で育てることをコンセプトに取り組みました。子どもたちが地元の歴史をあらためて見直し体験する機会や、笠岡市白石島や北木島の自然を活用した体験活動、地元の特産品「まこもたけ」の葉を利用したしめ縄作り、手話講座など、子どもたちが普段経験できない事業になるように検討・工夫を行いました。(※資料6)

町立図書館は、順調に蔵書数を増やし、令和4年度末に16万1千冊余りになるとともに、町民に親しまれる図書館を目指しております。新型コロナウイルス感染症の影響がまだ多少残りましたが、3年ぶりに通常の業務を実施することができました。令和4年度の開館日数は277日、来館者は5万2千人を超え、令和3年度より約1万人増加しました。貸出冊数は、約1万5千人の方に約6万5千点を貸出し、少しずつですがコロナ前の水準に戻りつつあります。

昨年度の活動の展示関係では、文化協会関連のもの、幼小中関連のもの、里庄出身の方の絵画展など、大小あわせて26の展示を行いました。また、催し物では、ボランティア団体「お話トトロ」の協力をいただき年4回のおたのしみ会をはじめ、菊桜のキーホルダー作りやビブリオバトルの図書館講座など、様々な取り組みを行いました。

さらに、佐藤清明資料保存会の活動拠点(事務局)となっており、年間を通して「清明研究会」や「清明を読む会」などの活動に取り組んでいます。毎年図書館で開催している「里庄のせいめいさん」展も、多くのお客様に好評をいただいております。また、令和4年度は、「菊桜育成保存会」を新たに創設し、福武教育文化振興財団の助成を受け、事務局として活動を支え、児童向け冊子「佐藤清明ゆかりの菊桜」とリーフレット「きくざくら」を作成し、町内の小学5年生から中学3年生までの全員の児童生徒に配布、さらに町内外の方々に配布しながら、菊桜を知っていただくとともに、その価値を広めることができました。

本年度は図書館を利用される方に、より楽しんでいただけるように、また安全かつ安心して施設を利用していただけるように、さらには信頼していただけるように、毎月の展示の工夫、コロナ禍で開催を控えていた図書館司書による「おはなし会」の復活、新たな図

書館講座を開く、図書館主催の催し物をより楽しいものに改善したりするなど、様々な取り組みを行ってまいります。

県立図書館や高梁川流域7市3町の図書館相互利用等、生涯学習の拠点施設として、町内外から好評をいただけるように努力してまいります。子どもたちが喜んで、本と親しめる環境づくりと、乳幼児と親子が安心して利用できる場所「おはなしの部屋」では、親子が読みたい本を自由に手にして読むことや、読み聞かせることで、読書の習慣づけができる環境が定着しており大変好評をいただいております。

男女共同参画社会の推進等、人権意識の高揚に関する講座や行事は、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りには実施できませんでしたが、保育園・幼稚園・小学校・中学校教員やPTA会員の方々を対象に、7月25日には、第1回人権教育講座「子育てのレンズでいいところみつけ！～非認知能力プログラムを使って～」、7月28日には、第2回人権教育講座「子どもたちの幸せをめざして」と題し、研修会を実施しました。今後も状況の変化に適切に対応しつつ、事業の改善等を進めていく予定です。

文化の振興に関しては、総合文化ホール「フロイデ」や福社会館、中央公民館などを有効に活用し、町民自らの活力や、行政と町民との協働によって、得られるエネルギーを生かしながら、町民のニーズと本町の実情に合った事業を展開してきました。町民の方々が感染症対策を講じられ、協力をしながら、無事に運営できております。文化ホール事業では、お客様の感染症対策のご理解とご協力により、「夏休み子ども劇場」や「ビッグバンタン ライブツアー2023with 伊東ゆかり 里庄公演」、陸上自衛隊第13音楽隊「ハートフルコンサート in 里庄」を開催することができ、音楽の素晴らしさを実感することができました。引き続き、施設の老朽化などの課題もあり、一層の改善、充実に努める必要があります。

歴史民俗資料館では、仁科・小川両博士関係の遺品や、大原焼、麦稈真田関係の物、昔から使用されてきた生活道具や農具などの展示公開も行っており、今後、文化財保護委員と学芸員が連携して、館内収納物の整理や、開館日の変更や周知方法について検討してまいります。

文化財保護委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の指定・解除、保存及び活用に関し必要な事項を調査・研究し、教育委員会に答申しています。4年度は、町内外の一般の方を対象に里庄の文化財を紹介する「大原焼の狛犬」をテーマにした歴史講座の開催、小学生を対象とした大原焼の制作体験、資料館を会場とした絵付け体験などを関係機関・団体の協力のもと里庄町の歴史や文化について触れるイベントを実施しました。今後も町内だけでなく町外の文化財研究にも力を注ぎ、保護委員会や学芸員と共に研修を行ってまいります。

スポーツの振興については新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、多くの社会体育事業を再開させることができました。

スポーツ協会主催の大会である野球大会やソフトボール大会、生涯スポーツであるグラウンド・ゴルフ交流大会やソフトバレーボール交流大会等、感染対策を行いながら、実施することができました。

青少年を対象にしたスポーツでは、町内の学童スポーツ団体である、少年野球クラブ・里庄FC・柔道スポーツ教室・剣道スポーツ教室が様々な大会に出場し、日頃の練習の成果を発揮し、各団体で素晴らしい成績を残しました。

町の一大事業である厚生体育大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止になりました。体力づくりふれあいマラソン大会は感染対策を行いながら、実施するための準備を進めていましたが、雨天により中止を余儀なくされました。晴れの国岡山駅伝競走大会は参加するために選手を募集しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、選手が集まらなかったため、大会出場を辞退しました。

スポーツ施設の開放については、新型コロナウイルス感染症による利用制限をすることはなく、町内の社会体育施設を町内・町外の方々に利用していただくことができました。

今後はさらにスポーツ事業が再開され、コロナ以前の状況に戻っていくと思います。町民の方々の健康づくり・地域の絆づくりのために引き続きスポーツ行事の運営を行っていきたいと思います。

IV 学識経験者の知見の活用

地教法第26条第2項に基づき、元おかやま山陽高校教諭 宮崎勇次 氏に点検及び評価に関する助言及び意見をいただきました。

里庄町教育行政については、それぞれの立場で、その特色を活かした教育行政が行われており、概ね安定的で良好な運営がなされています。今後は、時代の変化により、少子高齢化、社会情勢の変化、デジタル化への対応など、学校経営や教育行政全般について、しっかりと点検が必要であると考えています。

学校教育については、幼稚園・小学校・中学校全体において、落ち着いた状況の中で、学力向上（ハード面・ソフト面）や心の教育に取り組んでいます。かけがえのない園児・児童・生徒の将来を見据え、一人ひとりが自覚を持ち、自主的に行動ができ、自分の周囲の人や命を大切にする、思いやりのある人に成長するように、導いていただきたい。また、家庭教育の大切さを徹底し、充実させていただきたい。

生涯学習については、町民一人ひとりが楽しく参加する中で、勉強したり、人との絆を深め、ふれあいの良さを感じ取ることができれば幸いです。これらの学習が、生きがいや健康づくり、地域づくりに直結すると考えます。今後も、常に工夫を重ねながら取り組んでいただきたい。

教育委員会体制については、多様な要望や意見などに適切に対応しながら、効果的な教育行政の実現に向けた一層の努力が求められています。今後も課題、要望、意見などに対して、より望ましい改善に努め、教育行政に反映していただきたい。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対応を求められるようになってから3年目にあたります。学校教育また社会教育においても、行事や活動の中止、施設の使用制限など大きな影響はありましたが、ウィズコロナでの実施に向けての対応策を考える機会にもなりました。危機感を忘れず、手洗い、消毒、3密を避け、混雑時のマスクの着用等の予防策について、状況に合わせた指導、助言をお願いします。

今後も、教育関係者が一丸となり、現状に応じた教育行政の的確な判断・行動が求められます。次年度に向け、さらなる知恵を出し合い、よりよき教育環境を追求していただきたいと考えております。

里庄町社会教育委員に点検及び評価に関する助言及び意見をいただきました。

中学校部活動の地域移行については、継続的な話になると思います。PTAも継続的な役員体制がとれるようにしておく必要があると思うので、情報共有をお願いしたい。

里ちゃんチャレンジワールドの内容について、子どもたちのニーズを調べたり、学校で実施したかったが、できなかった事などを行ったりするのもよいかと思います。

「里ちゃんだより」を楽しみにしています。子どもたちのいきいきとした様子が書かれていて、先生方の努力が見られます。

スポーツについては、天候に左右されることが多いので残念に思います。

浅口大簡塾について、保護者が連れていくことになるが、仕事等で通うことが困難な場合の対応があればありがたいと考えます。

諸事業について、長年の積み上げの上に歴史民俗資料館を活用した事業も加わり、幼児から高齢者まで年齢別に充実した子育て・人権・スポーツ・文化にかかる事業等が展開され、頑張ってくださいと思っています。

図書館では、タイムリーにコーナーを設けて図書紹介をするなど、平素から精力的に取り組まれていて好評です。

中央公民館では、近年、空調整備が更新され、利用者は助かっています。その中で、利用者の大半は、高齢者と子育て中の親子と見られますが、設計が古く、階段が難点です。エレベーターを設置していただけたらと思っています。

歴史民俗資料館については、現在月2回開館していますが、必要な施設です。学芸員の常駐が望まれます。

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の減少が見えにくく、予定していた様々な事業の中で、できる事を工夫しながら取り組んでこられた教育関係皆さまの努力に敬服いたしますとともに、令和5年度こそあらゆる行事が予定どおり実行できますことを望んでおります。

V 終わりに

令和4年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し学識経験者及び社会教育委員の助言及び意見をいただき報告いたしました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による対応において、実質3年目の年となりました。幾分その影響は穏やかになり、短いながらも培ってきた経験を生かせる年でもありました。今後も感染症対策を講じながら、新型コロナウイルス感染症との共存や、新しい生活様式の実効性が必要不可欠となっています。

その中で、今後も教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、教育委員会が町民にとって身近になるよう努力し、町民に支えられた、町民のための教育行政が展開できる教育委員会になるよう、引き続き努力したいと考えております。

資料 1

令和4年度教育委員会会議

定例会

4月1日(金)	5月24日(火)	6月21日(火)	7月27日(水)
8月25日(木)	9月21日(水)	10月25日(火)	11月24日(木)
12月21日(水)	1月25日(水)	2月20日(月)	3月10日(金)

資料 2

教育委員が出席した研修会

11月30日(水)	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会 「学校・家庭における一人一台端末の活用について」 関西大学総合情報学部・大学院総合情報学研究科 教授 小柳和喜雄 氏	里庄町福祉会館 2階 研修室 Web会議
-----------	---	----------------------------

新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催となったもの

岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったもの

里庄町教育委員会県外視察研修

教育委員が出席及び出席を取り止めた行事等

令和4年4月1日(金)	新任教職員着任式 (中止)
令和4年5月25日(水)	西小運動会 (出席取り止め)
令和4年5月26日(木)	東小運動会 (出席取り止め)
令和4年6月9日(木)	小川賞授与式
令和4年6月21日(火)	教育委員学校訪問
令和4年8月15日(月)	平和祈念式典・戦没者盆供養 (出席取り止め)
令和4年8月20日(土)	理化学研究所里庄セミナー (中止)
令和4年8月28日(日)	仁科芳雄博士顕彰 ロボット・コンテスト2022 (ビデオ審査)
令和4年9月25日(日)	第70回厚生体育大会 (中止)
令和4年9月28日(水)	東幼稚園運動会 (出席取り止め)
令和4年9月30日(金)	西幼稚園運動会 (出席取り止め)
令和4年10月13日(木)	中学校運動会 (出席取り止め)
令和4年10月30日(土)	青少年健全育成「未来の会」総会・第21回里庄町教育を考えるつどい(中止)
令和4年11月5日(土)	1日学校公開(中止)
令和4年11月17日(木)	西小学習発表会 (出席取り止め)
令和4年11月18日(金)	東小学習発表会 (出席取り止め)
令和4年12月6日(火)	仁科賞授与式
令和4年12月8,9日(木・金)	東幼生活発表会 (出席取り止め)
令和4年12月8,9日(木・金)	西幼生活発表会 (出席取り止め)
令和4年12月9日(金)	仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会
令和5年1月8日(日)	令和5年里庄町はたちの集い
令和5年2月7日(火)	第55回里庄町立志式

※ 幼稚園・小学校・中学校 入学式・卒業式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各学校園とも来賓の出席を取り止めとした。

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、平素より何かと大変お世話になっておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

ただいま、里庄町内の幼稚園、小学校、中学校においては、コロナ禍にあっても町民の皆様方のご理解とご協力により、安全に教育活動を進めることができている。依然としてコロナウイルスの感染は見られますが、感染防止対策を行って、実施可能な教育活動はできるだけ行うようにしております。今年度は3年ぶりに、水泳学習も再開いたしました。合わせて、社会教育の活動や各種行事も再開できています。

そのような中、令和4年度の里庄町の教育行政の推進につきましては、「子どもの元気な声が響き、みんなの笑顔があふれるまちをめざして」を基本目標として取り組んでいます。里庄町の次代を担う人づくりを推進するためには、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが大切です。また、大人も子どもも夢や目標に向かって、いきいきと生活できるように、地域に根ざした、文化、芸術、スポーツ等を生涯にわたって学び、楽しむことができる環境づくりを進めてまいります。

町民の皆様方の今後とものご支援・ご協力をお願い申し上げます、ごあいさついたします。

スマートフォン・ゲームの適切な利用についてのお願い

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間の中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少も指摘されています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。

ルール作りは保護者の責任です。その責任を果たすことが、子どもを守ることに繋がります。保護者の責務として、家庭内のルール作りをお願いします。ご家庭で、お子様としっかり話し合って、子どもも納得するルール作りを進めてください。

※各家庭での徹底をお願いいたします。

指導主事 天野 正彦



令和4年度 里庄町の教育目標

子どもの元気な声が響き、

みんなの笑顔があふれるまちをめざして

第4

1. 生きる力を育む学校教育の推進

- 学校教育「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
 - ・ 認めること
 - ・ 非認知能力の育成（3シジョンプログラム～「里庄」の力～）
 - ・ 学校給食
 - ・ GIGAスクール

あいさつ、落ち着いた集団の確立、主体性の育成、授業改善、基礎・基本の徹底、言語活動の充実による表現力の育成（論理的に書く力、コミュニケーション力）

○ 家庭教育（認めること、基本的な生活習慣、しつけ、あいさつ、家庭学習）

○ 地域の人々との連携（コミュニティスクールへの推進）

2. 心豊かで生きがいを感じ、育む生涯学習の振興

- ・ 主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に活かしていくことができる「生涯学習によるまちづくり」の実現
- ・ 豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進

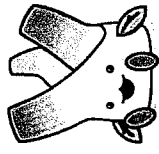
3. やすらぎとうるおいを感じる芸術・文化の振興・歴史の保存

- ・ 総合文化ホール等の施設設の文化活動を充実
- ・ 郷土に対する理解や愛着を深め、豊かな感性や心の育ちを促進するシビックプライドの醸成

4. 世代を超えての各種文化活動や町民の文化遺産保護意識の高揚

5. 生涯にわたるスポーツ活動の振興

- ・ 各種スポーツ活動の振興
- ・ スポーツ指導者の養成・確保
- ・ 異なる国や地域・人との交流活動の推進
- ・ 幼稚園、小、中学校における、国際理解教育、英語活動の推進
- ・ 国際感覚を養う機会を提供し、多文化共生社会の実現を推進



教育相談日のお知らせ

日 時	毎週 月曜日・火曜日・水曜日 午前9:00～12:00 午後1:00～5:00
場 所	「里庄むつみ会館」（里庄町大字里見1004番地） お子様の学習や発達障害等について、相談を希望される方は、教育委員会事務局 局内（0865）64-7212までご連絡をお願いします。（ご希望日時が重なった場合、調整させていただきます。）



担当者 教育相談員 栗尾康子

「心豊かでたくましく見よう」の育成をめざして

里庄東小学校・東幼稚園長 土屋新太郎

里庄東小学校は、本年度全児童298名、全14学級でスタートしました。元気で気持ちよいあいさつや返事ができ、明るく前向きで、互いに認め合い、一人ひとりの居場所があるオアシスのような学校を目指して、全校児童と教職員が日々の授業や特別活動に全力で取り組んでいます。

具体的なめざす児童像として、「よく学ぶ子」「くじけない子」「おもしろい子」を3つの柱とし、それぞれ次のような重点的な取組を行い、児童の心身に健全な成長を図ります。

- (1) よく学ぶ子
 - 主体的学習意欲を高める。
 - 基礎学力の定着を図る。
 - 素頭力の向上を図る。
- (2) くじけない子
 - 自ら進んで体力向上や健康増進を図ろうとする態度を養う。
 - 目標をもち、最後までやり抜こうとする態度を養う。
- (3) おもしろい子
 - 自己肯定感を高める。
 - 他の人を大切にす言動を心がける児童及び集団に高める。



運動会で表現する児童

東幼稚園は、年少りす組・年長くま組合わせて33名です。園児が互いに関わり合い、五感を使って主体的に遊ぶことを通して、「げんきな子ども」「やさしい子ども」「がんばる子ども」「かんがええる子ども」を育てていきます。幼稚園・小学校ともに、保護者地域の皆様温かいご支援と見守りをいただきながら、「認めること」と「非認知能力の育成」を大切に、「心豊かでたくましく見よう」の育成と、安全・安心で信頼される学校の創造を目指します。本年度もどうぞよろしくお願いたします。



毎日元気に遊ぶ園児

里西っ子の「生きる力」を育てる

里西小学校・西幼稚園長 柚木 康男

本年度、里西小学校は全校児童360名、全17学級でスタートしました。「切磋琢磨」の校訓と教育目標「里西っ子の生きる力を育てる」のもと、「めざす子ども像」の「よく考え進んで学ぶ子ども」「仲良く助け合う子ども」「明るく元気な子ども」の3つを目指します。子どもたちのよさや頑張りを確かに認め、自己肯定感や非認知能力を高める教育を進めます。重点としている具体的な取組は次の通りです。

- (1) よく考え進んで学ぶ子ども（知）
 - 学ぶ楽しさ、できる喜びを感じる魅力ある授業づくり
 - 基礎・基本の徹底 ○伝え合う活動の充実で表現力を育成
 - 学習規律の徹底 ○意欲的に進める家庭学習の充実
- (2) 仲良く助け合う子ども（徳）
 - 認めて伸ばし自己肯定感を育む学習指導・学校行事
 - 人・時間・協働を大切にす生徒指導 ○道徳指導の充実
- (3) 明るく元気な子ども（体）
 - 体力づくりの推進と健康安全の強化 ○基本的生活習慣の確立
 - 食育の推進



あいさつ運動



幼稚園マリーゴールド苗植え

西幼稚園は、年少ちゅうりつ組・年長すみれ組合わせて園児数49名でスタートしました。小学校と一貫した教育目標を設定し、遊びを通して「意欲をもってがんばる子」「思いやりのある子」「元気な子」を育てます。本年度も、保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、心豊かで、たくましく見ようを育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

自ら学ぶ生徒の育成を目指して

里庄中学校長 池田敬治

令和4年度は、1年生117名、2年生91名、3年生104名の合計312名、11学級でスタートしています。少しずつではありますが、ウィズコロナで各教育活動を行ってまいります。4月に予定されていた3年生修学旅行は9月に延期となつていますが、1年生福山研修、2年生広島研修は5月までに無事実施することができました。



1年生福山研修

学校教育目標「心豊かに自ら学ぶ生徒の育成」のもと、

- ・夢や希望を持ち、自ら進んで学習する生徒
- ・何事にも果敢に挑戦し、成功と失敗から学ぶことができる生徒
- ・自分、周囲の人、地域を大切に、思いやりと感謝の心を持つ生徒の育成を目指します。

生徒たちは、日々、落ち着いて学習に取り組んでいます。各種行事においては実行委員活動や専門委員会での活動等にも積極的です。本年度も、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、ひとりひとりの生徒の可能性を広げていく指導・支援をしていきたいと思つています。どうぞよろしくお願いたします。



2年生広島研修

里ちゃんだより



里庄町教育委員会 電話 0865-64-7212

教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。依然、新型コロナウイルスは収まるところを見せず、猛威を奮っています。そのような中、皆様のご協力をいただきたが、社会教育の推進及び体育施設を利用していた教育委員会職員も元気をいただいております。以前の状況のようにはいかないことも多々ありますが、引き続き、生涯学習の輪を広げていきたいと考えております。

また、各幼稚園、小学校、中学校におきましても、感染症対策を行いつながら教育活動を進めております。運動会や学習発表会、校外学習等、大きな行事も工夫しながら行うことができている。本年度も後半部分になりましたが、これからは、子どもたちの元気な姿と、笑顔あふれる瞬間を大切にしながら、教職員と力を合わせて充実した学校、園教育を運営して参ります。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(文責 指導主事 天野正彦)

GIGAスクール構想 ～各校でタブレット端末の活用が進んでいます～

今年度で、国のGIGAスクール構想実施に伴った、タブレット端末の利用が2年目となりました。指導者も子どもたちも、扱いに慣れ、学習内容の理解や、友達との意見交流、自主的に行う学習等に活用が見られています。また、教科の学習だけでなく、児童会・生徒会活動や、他校との交流、校内での全校朝礼など、活用の幅が広がっています。さらに、学校内での使用にとどまらず、家庭での活用も視野に入れ、端末の持ち帰りも、徐々に始めております。各校の実態に応じて進捗状況に違いはありますが、今後は、家庭の端末の持ち帰りも進めていきます。

さらに、コロナ禍で、やむを得ず登校できない児童生徒に向けて、授業の映像を家庭へ配信することも試行しています。

今後は、児童生徒が今以上に、主体的に学習したり、友達と協同的に学習したりすることができるよう活用を進め、求められている資質・能力の向上に取り組んでいきます。

(文責 指導主事 天野正彦)

里庄町の子どもの学力について (全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より)

今年度も、全国学力・学習状況調査、並びに岡山県学力・学習状況調査が行われました。結果の概要をお示しします。

全体としては、ここ数年、全国平均と比べてよい年もあれば、やや低い年もあり、特に大きく心配する状況は見られません。

全国学力・学習状況調査 (小学6年生、中学3年生) では、今年度、小学6年生 (国語・算数・理科) と中学3年生 (国語・数学・理科) の両方で全国平均を上回りました。

岡山県学力・学習状況調査 (小学3年生～5年生、中学1年生～2年生) でも、小学校は、国語と算数の両方の教科で、どの学年も全国平均を上回っています。

中学校でも、国語と数学、英語 (中2のみ) で、どの学年も全国平均を上回っています。今後も、結果だけを見て、一喜一憂するのではなく、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちもがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

○よくできているところ：漢字・計算など基礎的な内容

★課題と考えているところ：目的に応じて文章を書いたり、説明したりすること。

里庄町では小学校と中学校が連携して、学力向上の重点目標を次の3点に決めて、充実を図っています。

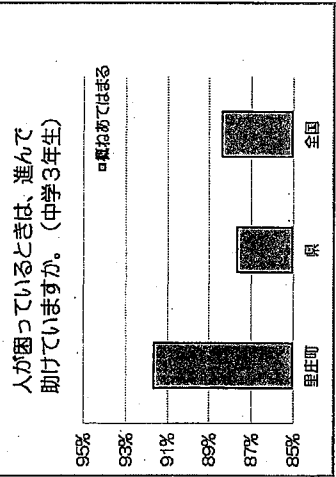
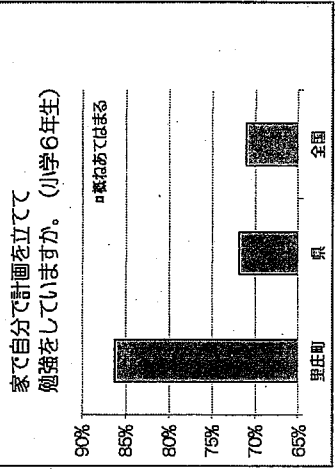
- ①基礎・基本の徹底
- ②表現力の育成 (書く力)
- ③家庭学習の充実

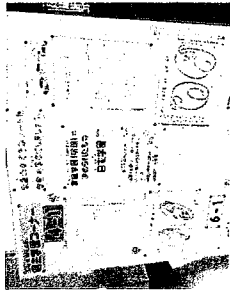
今後も、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。

(文責 指導主事 天野正彦)

里庄町の子どものよさは? (全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より)

※里庄町の子どもたちが、全国や県と比べて、特にすぐれている質問項目をお示します。





自主学習ノートコーナー

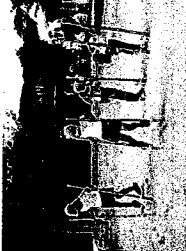
里庄東小学校は、明治5年に里見村立里見小学校として創立以来、今年で創立150周年の節目を迎えます。現在、PTAや地元企業の方々のご協力をいただきながら、児童会が主体となつて様々な記念活動を計画・実施中です。航空写真、キャラクター作り、お祝いの集会、感謝の大掃除、校訓のパネル製作、横断幕等の取組が児童の健やかな成長につながることを願っています。さて、里庄町では、「認める」「非認知能力の育成」「3シヨンプログラム」等に幼小中が連携しての取組が実施されています。

このことを受けて、東幼稚園、東小学校では、自ら学ぶ力や挑戦する力の育成にも力を入れて取り組んでいます。東小学校では、自主学習の取組を全校で紹介し、互いに学び合うことを目的としてさとちゃんミュージアムの一角に自主学習コーナーを設けています。宿題とは別に、児童が自主的に取り組む自主学習には、それぞれの興味や関心の違いばかりでなく、自らが知りたい、分かりたいという思いがとてども長く現れていて、「なるほど」「さすが」と思えるものばかりです。また、毎月GIGA端末を活用して3年生以上の児童でタイピングコンテストを実施しています。結果は、毎月集計し上位者を紹介しています。高学年を凌駕する中学年の児童も出現するほどです。タイピング力は、「一生の宝物」。どんどんチャレンジしてほしいと思います。

一方、東幼稚園では、チャレンジ遊びとして竹馬やなわとびに挑戦しています。自分で決めた目標の達成に向けて、毎日コツコツと努力する園児たちに思わず拍手したくなります。最初は上手にできないことでも、諦めずに繰り返したり、自分で工夫したり、そして友達に教えてもらったりしながら、できるようになった時の満足感はきつとひとしおのことでしょう。大人顔負けのチャレンジ精神が、今日も園庭に満ちあふれ、園児の笑顔と勇気に包まれた元気一杯の幼稚園です。



タイピングコンテストポスター



竹馬に挑戦する園児たち

里庄西小学校では、本年度の運動会を、2度の延期のため11月に行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1部(3、5年生)、2部(2、4年生)、3部(1年、6年生)に分かれて行いました。本年度のスローガン「心を一つに、全力、協力、運動会」のもと、かけっこ、リレー、表現運動などの種目に力いっぱい取り組み、お互いに応援をしました。運動会の練習を積み重ね、お家の方の応援の中、一人ひとりが自分らしさを全力で表現しました。コロナに負けず、やり抜いたことで、達成感や充実感を高めました。

また、同じく11月に、各教室で学習発表会を行いました。各学年で学習してきたことを、劇や横造紙、タブレットなどを使って分かりやすく家の人に伝えました。練習中には、他の学級や学年に発表をする機会を設けました。学習の成果を保護者の方に発表することで、学ぶ楽しさや表現することの喜びを感じていました。一人ひとりが自分らしさを伸ばしています。

幼稚園では、異年齢で一緒に活動することで、相手を思いやる気持ちや育むようになっています。年少児は、年長児が遊んでいる様子を見て、憧れを抱いたり、新しい遊びやルールを覚えたりします。また、年長児は、自分たちが手本となり、自分の言動に自信をもったり、成長の喜びを感じたりします。子どもたちが、安心して遊ぶことができるように、教師は遊びの環境構成や援助の工夫に努めています。

このように学校・園では、コロナ禍の中で、人との関わりを大切に、豊かな学びができるように安全に配慮して取り組んでいます。今後とも様々な工夫をしながら、豊かな体験を通して、「里西っ子の生き生きを育てる」という学校・園目標の実現に努力してまいります。



運動会・表現運動の様子



学習発表会の様子



運動会「元気体操」を演じる園児たち

一歩先へ

今年度も昨年度に引き続き、「自分で判断し、行動できる人」「周りの人を応援できる人」「周りの人を応援できる人」の育成を目指してまいります。加えて、今年度は「失敗を恐れず、いろんなことにチャレンジする人」を目指してほしいと伝えていきます。4月から9月に延期して実施された3年生の修学旅行では、実行委員に多くの生徒が立候補し、旅行中は、実行委員のみならず3年生全員が主体的に行きました。旅行中、3日間にわたって、一度も集合時間に遅れることはありませんでした。その姿を見ただけでも「自分で判断し行動できる人」「周りの人に応援してもらえらる人」になれていたと思います。



修学旅行の様子



体育会の様子

10月に行われた体育会では、これまでより短く、少ない練習期間・時間で臨みました。予行の時には、本番がどうなるのかと心配でしたが、迎えた本番では、リードする3年生、学校の中心となりつつある2年生、先輩達にしっかりとついていく1年生と、それぞれにしっかりと取り組み、スマートでスムーズな実技ができました。生徒達の力をあらためて感じる事ができました。

保護者・地域の皆様のおかげで、生徒はまっすぐ育っています。里庄中学校教職員一同、しっかりと生徒に寄り添い、ますますいろいろなことにチャレンジできる生徒の育成に尽力していきたいと思えます。引き続き、ご支援ご協力よろしくお願いたしました。



参観授業の様子

里ちゃんだより



里庄町教育委員会
電話 0865-64-7212

「町民の皆様、本当にお世話になっております」

町民の皆様には、教育行政の推進にあたりまして、ご理解とご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。本年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響から、様々な事業を変更したり中止したりすることがありましたが、次第にコロナ禍前の状況に近づけるように、工夫しながら開催できた行事が多くありました。町民の皆様方のご協力により、参加いただいた方の笑顔や元気な姿を拝見でき、本当にありがとうございます。

また、幼稚園、小学校、中学校でも、学校・園行事に少しでも多くの保護者の方に来ていただいていたようになってきました。修学旅行も県外へ宿泊を伴って実施できております。子どもたちの元気な姿を、校内だけでなく、校外でもっと見られるようになり、地域の皆様にも見えていたいただけるようになることを願っております。

本紙は、今年度行った教育委員会の事業の一端をお知らせいたします。紙面の関係で掲載できませんが、文化ホール事業として、夏休み子ども劇場や陸上自衛隊のコンサートなども、多くの観覧者にご来場いただいたり開催できております。これからは、教育委員会の職員一同が一丸となって、町民の方をはじめ、お越しいただく全てのお客様に、笑顔でお帰りのような催し物を企画していきたいと思っております。

次期に新型コロナウイルスの取扱いが変更されるようなニュースも聞かれますが、国からの情報をしっかりと精査しながら、教育委員会としても取り組みを進めていきたいと考えています。地域の皆様をはじめ、各種団体や町内企業の方々に、積極的に講師やボランティアとして参加していただき、子どもたちの支援をお願いしたいと考えております。

引き続き、子どもたちの元気な声と笑顔が見られるよう、学校・園、家庭、地域との連携を深めていきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いたします。
(文責：事務局長 小寺 大輔)

スマートフォン・ゲームの適切な利用について

里庄町教育委員会では、町、学校、PTAと連携して、子どもがネット上のいじめや犯罪に巻き込まれないようにするために、町全体でスマートフォンやゲームの使用についてのルールづくりを推進しています。

里庄町の統一ルールとしては、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。特に、スマートフォンやゲームを持ち始める時に、ルールを守れる環境をつくった上で、使うことが大切になります。お子様が持ち始める時に、親子でしっかりと話し合い、ペアレンタルコントロール(利用時間制限、アプリの制限等)を活用して、親子でしっかりと話し合ってルールづくりを進め、安全・安心に日々が送れますように、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

※裏面に関連記事があります。

(教育長 杉本 秀樹)

里庄町「生きる力」向上プロジェクト「さとしよう未来塾」

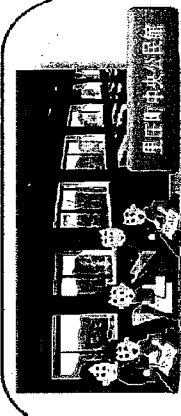
将来を担う子どもたちの「生きる力」の向上と地域主体のまちづくり、地域で子どもを育てる地域教育力の向上を図っています。

- ◇対象 小学4年生から中学3年生(制限)
- ◇内容 ①自学自習の寺子屋事業
②様々な体験学習事業
- ◇運営 地域住民やボランティアスタッフの協力により運営

- 地域教育や社会教育力の向上
- 子どもが「生きる力」の育成
- 地域との交流、人と人(世代間)との交流、子ども同士の交流
- 地域人材の育成(役割の分担、まちの活性化)

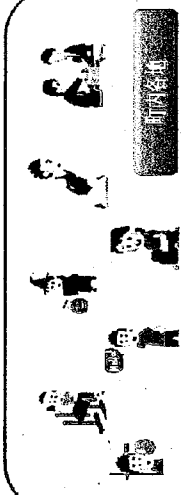
「学び」を支える「地域」と「子ども」が主体に

☆さとしよう未来塾を支える2本の柱



① 里ちゃん寺子屋

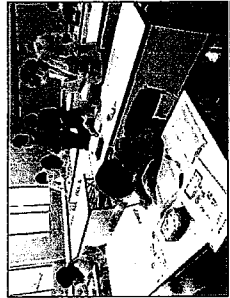
- ◇目的 子どもたちの居場所づくり
- ◇学習の定例化(自学自習)
- ◇学区の異なる子ども同士・地域住民との交流
- ◇内容 毎月1回、土曜日の午前中(9時～11時)
- ◇場所は里庄町公民会館
- ◇5月から翌年3月まで10回実施
- ◇運営 自学自習を基に、地域自治体、ボランティア等が繋がる。



② 里ちゃんチャレンジワールド

- ◇目的 体験活動を通して、子どもたちに「生きる力」を養う。自分たちが暮らす「地域」の人たちと連携することで、地域との交流を図り「地域で子どもを育てる」風土を形成していく。
- ◇内容 子どもたちに、様々な体験が味わえる内容の事業を展開する。事業は、原則として二重日や長期休暇等。
- ◇運営 県立保健、科学実験、スポーツ教室、国際交流、ちの作り体験等 各事業の講師等に積極的に協賛して地域住民に関与してもらう。学三、団体等のボランティアを積極的に受け入れる。

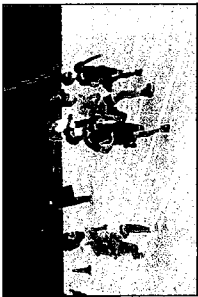
「さとしよう未来塾」は、地域の方々、地元企業、多くのボランティアの皆様のお力添えをいただくことで実施できております。厚くお礼を申し上げますと共に、引き続き、ご支援ご協力をお願い申し上げます。



「里ちゃん寺子屋」の様子



「チャレンジ・ワールド」しめ縄作りの様子



「チャレンジ・ワールド」随上教室の様子

里庄町の子ども様子（スマートフォン・ゲームの実態調査より）

里庄町教育委員会では、毎年、スマートフォン・ゲームの使い方についてのアンケートを実施しています。今年度は12月に、小学4年生から中学3年生までの子どもたちに実態調査を行いました。その結果から気になる質問項目について紹介します。

子どもを守るのは、社会の大人の責任です。子どもが一番身近にいる大人として、まずは、家庭内のルール作りについて取り組みましょう。ご家庭で、お子様としっかり話し合って、**子どもも納得するルール作りを進めてください。**

小学校（4年生～6年生）

スマートフォンのネットを使うとき、
家庭でルールを決めているか

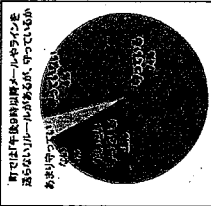


中学校（1年生～3年生）

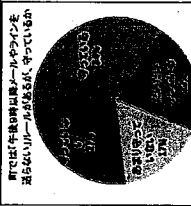
スマートフォンのネットを使うとき、
家庭でルールを決めているか



決めている家庭が小中ともに4割弱

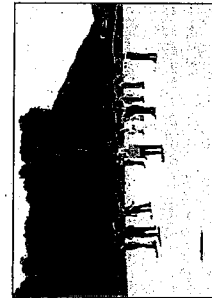


中学校（1年生～3年生）



中学生になると守りにくくなる傾向がある

スポーツ行事の再開



グラウンド・ゴルフの様子



ソフトボールの様子

今年度、社会体育事業関連では、様々な事業を再開しました。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ行事はほとんど開催することができなかったため、スポーツ行事の復活に喜びの声が上がりました。

令和4年度里庄町生涯スポーツグラウンド・ゴルフ交流会では、町内在住の60歳以上の方々に参加者として募り、多くの方々が参加していただきました。参加者からは、笑顔が見られ、「コロナで活動が自粛されていたため、開催されて本当に嬉しい」とのお言葉をいただきました。担当として大変ありがたく思いました。

令和4年度里庄町生涯スポーツソフトラケットボール交流会では、18歳以上の女性を対象に町内と町外から参加者を募り、大会を開催しました。試合に関しては、どの試合も白熱したラリーが見られ、チーム内で声を掛け合い、支え合う姿が印象的でした。町内チームと町外チームの方々が交流会を通じて親睦を深めることができたと考えられています。これからもスポーツを楽しむ機会を提供し、参加してよかったですと思っていただけに、スポーツ行事を盛り上げていきたいと思っています。

(文責：井上 仁)

令和5年は私たちの集い ～大人としての自覚と社会人としての責任を抱いて～

これからの里庄町を担う人が晴れて成人の日を迎えられたことを祝い、里庄町では「はたちの集い」が実施されました。法律の一部改正により、令和4年4月1日以降、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。18歳を対象とした場合、受験や就職活動の時期との重複や保護者への経済的な負担などが懸念されました。そこで里庄町では、社会的にも精神的にもできることが大きく増える区切りの年に、改めて成人としての責任を自覚してもらうことを目的とし、今までのとおり20歳で集うことにしました。

今年1月8日（日）に実施され、71名の参加がありました。式典は厳かに行われ、参加者代表が「当たり前の日々には感謝しながら、大人としての自覚を持ち、責任のある社会人として、莽んでいく覚悟でございます。これからも、それぞれが自身の目標に向かって、日々努力していきたいと思っております。」と決意を述べました。式典終了後に行われたビデオレターの上映では、恩師からのお祝

いメッセージや体育会の様子をまとめた動画が映し出されました。上映後には、タイムカプセルを持った恩師の登場があり、参加者から喜びや驚きの声が上がりました。参加者は、旧友たちとの再会を喜びながら、大人の門出をそれぞれが祝いました。皆様がご健勝と、一層のご活躍をお祈り申し上げます。

(文責：山本 博文)



町民憲章を朗読する様子



謝辞を述べる様子

新しい時代の学びを支える安全・安心な教育環境の実現に向けて

学校施設は未来を担う子供たちが集い、一日の大半を過ごす大切な学び・生活の場です。本町では学校施設の老朽化が進む中、子どもたちの多様なニーズに応じた教育環境の向上と老朽化対策を一体的に進めていき「新しい時代の学び」を支える機能・性能・質的改善を推進しています。

幼稚園施設では、幼児期における心身の発達に、とても重要な役割を果たす遊戯施設を、園児が遊びを通して自発性や独創性を学習するともに好奇心を刺激しながら体力づくりが行えるような体育機能を果たした複合型の遊具を約50年ぶりに更新しました。

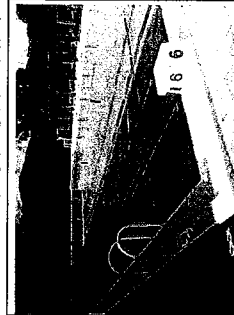
(文責：渡路 尚久)



東・西幼稚園複合遊具更新



東小学校ランチルームLD化改修



西小学校体育プール塗装改修

里庄町教育委員会の重点施策

○ 学校教育の安定と充実

1. 落ち着いた集団づくり

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 生活規律、学習規律の徹底（あいさつ、そうじ、はきもの、話の聴き方）
- ・ ハイパーQ U検査（小1から中3まで年2回の実施）
- ・ 生活支援員の配置（幼小中で25名）
- ・ 教育相談員の配置
- ・ 家庭との連携（里ちゃんだよりの発行、親学研修、教育講演会）

2. 確かな学力をつける

- ・ 1時間1時間の授業を大切にする（授業改善の推進）
- ・ 全国及び県学力調査の有効活用
- ・ 小中連携の取り組み

※里庄町の学力向上の重点目標

小中連携による落ち着いた学習環境づくりと学習意欲を高める
ための授業改善

①基礎・基本の徹底

②言語活動の充実による表現力の育成

（論理的に書く力・コミュニケーション力）

③家庭学習の充実（復習、予習を意識して、手引きの活用、生活時間調査）

※相互授業参観、出前授業、体験授業の実施、合同研修会（幼稚園含む）

- ・ 反復学習と補充学習

※朝の学習、帰りの会、サマースクールの実施

3. 豊かな心、豊かな人間性の育成

- ・ 人権教育、道徳教育の推進
- ・ 家庭・地域との連携、ふるさと里庄町への郷土愛を育てる。
立志式、二分の一成人式の取り組み、里庄まこもたけの学習、地域の偉人の学習
- ・ 食堂給食の推進と活用

○ 社会教育の充実

- ・ さとしょう未来塾（里ちゃん寺子屋、里庄チャレンジ・ワールド）を開設
※ 暁天座禅、地元企業や国際交流協会との共催事業、陶芸教室、科学教室
歴史や福祉活動の勉強や体験、地域の方々との共催事業等
- ・ 子どもに豊かな心や科学的素養が育つ環境や機会を提供
※ 仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会、柔道・剣道スポーツ教室、野球
サッカーなど、スポーツ少年団、立志式 等

○ 家庭教育の充実

- ・ 小学校就学時健康診断や中学校入学説明会時に、子育て講座（親育ちの研修）
を開催
- ・ 保護者同士が、子育てに共通する悩みを共に考える講座（子育て未来塾）を
を開催
- ・ 家庭と地域と学校が連携し、子どもを育むことについて考える「里庄町教育
を考えるつどい」を開催
- ・ 町内の学校、園の様子を広く知ってもらうため「1日学校公開」を開催

資料 6

さとしょう未来塾

○ 里ちゃん寺子屋事業 参加人数

5月 6人	6月 7人	7月 6人	8月 6人
10月 6人	11月 8人	12月 6人	1月 6人
2月 5人	3月 8人		

※9月は開催なし。

参加者 小学校4年生から6年生及び中学1、2年生 10人

指導ボランティア 10人 (町内一般成人のみ)

1回あたり平均参加者 約6人

※ 中学校定期考査中に、中学生を対象とした寺子屋事業を開催

○ 里ちゃんチャレンジ・ワールド 参加人数 (指導者等を含む・複数回数実施は延べ人数)

囲碁教室	53人
スポーツ教室	38人
暁天座禅	145人
冒険DAYキャンプ	41人
歴史教室	13人
科学教室	7人
ハロウィンフォトコンテスト	82人
大原焼教室1	23人
大原焼教室2	23人
わくわく科学ランド	103人
まこもしめ縄づくり	54人
ロゲイニング	27人